**第３学年　保健体育科学習指導案**

平成 ２６年１０月２４日 金曜日

第３学年１・３組　商業科・経営情報科

（男子　　名　女子　　名）

場　所　富島高等学校テニスコート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　那　須　祐　一

１　単元名　球技（ネット型：ソフトテニス）

２　単元の目標　（入学年次の次の年次以降）　　\*( )は入学年次の次の年次

（１）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めて、ゲームが展開できるようにする。

　・ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空 間を作り出すなどの攻

防を展開すること。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(技　能)

(２）球技に主体的に取り組むとともに、（フェアなプレイを大切にしようとすること）、（役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること）、合意形成に貢献しようとすることなどや、（健康・安全を確保すること）ができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(態　度)

(３）技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(知識、思考・判断)

３　運動の一般的特性

　　学習指導要領では、『「ネット型」とは、コート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである』と示されている。

　　　特にソフトテニスはコート上でネットを挟んで相対した２ペア（１ペア２名）が、サービス・レシーブ・ボレー・スマッシュ・グラウンドストロークなどのボール操作により、ボールに緩急や高低、回転などの変化を付けて前後左右にねらった場所に打ち分けたりして、得点しやすい空間を作り出して攻撃していくことで一定の得点に早く到達することを競い合うスポーツである。

　ボールを持たない時の動きについても、相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動するなど、状況に応じて適切に発揮されるオープンスキルが要求される。

これまで学習してきた知識や技能を活用して、自己や仲間、チームの課題に応じた練習計画や作戦の立て方を学習する「思考・判断」の過程に喜びや楽しさを味わう事ができる。

４ 生徒の実態

（１）運動の特性に触れる楽しさ体験状況

中学時にソフトテニス経験者が　　名　運動部に加入している生徒は　名、未加入が　名である。全体的に意欲的に運動に取り組む生徒が多く、授業も活気がある。本校では各学年の選択授業の種目の一つになっており、中学校での部活動や、授業において経験している生徒も　人おり、生徒にとっても身近な種目である。

運動能力の差があるが、興味・関心は高く、グループ内で協力しながら楽しんで学習している

（２）知識、思考・判断に関する学習体験状況

　　　教師主導による授業を展開していき、身に付けた知識や技能を生かして自分たちで練習計画を立てるなど

生徒が主体的に学ぶことができる学習形態へと段階を応じて取り組んでいる。グループ活動の中で、経験者が中

心となってチームや個人の課題を見つけ、「ソフトテニス　スキルアップテキスト」活用したり、アレンジする

ことで、適切な練習方法を考え、お互いにアドバイスを行ったりするなど、グループで課題解決を図る活動に力

を入れて取り組んでいる。

また、各グループ対抗戦においても試合方式、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方ができるようにしたい。

（３）技能（運動）の習得状況

（４）体力の状況

　　ソフトテニス選択者の新体力テストの結果は以下の通りである。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Ａ判定 | | Ｂ判定 | | Ｃ判定 | | Ｄ判定 | | Ｅ判定 | |
| ％（　人） | | ％（　人） | | ％（　人） | | ％（　人） | | ％（　人） | |
| 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

（５）生徒の運動に対する思いや願い

５　学習を進めるに当たって

　　基本的な技能である「ボール操作」とゲーム中に必要となる技能である「ボールを持たないときの動き」を身に付けさせるために、毎時間の授業の中で「ソフトテニス　スキルアップテキスト」を活用し、チームや個人の課題に応じて生徒が主体的に練習方法を選択し、チームや事故の課題を解決することができるような授業を展開したい。特に「ボール操作（サーブ・レシーブ）」はゲームでは必要不可欠な技能であることを理解させ着実な習得を目指し、「ボールを持たないときの動き（空間をカバー・タイミングを合わせて守備位置を移動する）」ペアとの連携した動きが勝敗を大きく左右する技能であることを理解させたい。

授業の始まりに、グループでソフトテニスにおいて必要となる、肩や股関節の可動域を広げるための運動を中心としたウォーミングアップを行い、授業のオリエンテーションで紹介したトレーニングメニューの中からチームの課題に応じた２～３種類のトレーニングを取り入れることで自分自身の健康管理や体力向上への意識や運動の実践するにあたっての意欲も高めたい。

ゲームでは、ペアとのコンビネーションに重点を置き、特にサービスとレシーブからの得点パターンを身に付けらえるようにし、そのためのボレー、スマッシュのネット付近でボールの侵入を防いだりできるようにしたい。男女が真剣勝負で対戦できるような簡易ゲームの積極的活用やルールや得点の工夫も重点的に行いたい。

なお、学習の最終段階であることを踏まえ、審判の方法や競技会の仕方についても理解させ、全員で協力してできるよう指導したい。

６　単元の評価規準（例）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 運動の技能 | 知識・理解 |
| 単元の評価規準 | ●ネット型・ソフトテニスの学習に主体的に取り組もうとしている。  ・フェアなプレイを大切にしようとしている。  ・役割を積極的に引き受け、自己の責任を　果たそうとしている。  ●合意形成に貢献しようとしている。  ●互いに助け合い、高め合おうとしている。  ・健康・安全を確保している。 | ・これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。  ●課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。  ・チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。  ●作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。  ・健康や安全を確保・維持するために自己や仲間の体調に応じた活動の仕方を選んでいる。  ●球技を生涯にわたって楽しむための自己に適したかかわり方を見付けている。 | ●空間を作り出すなどの攻防を展開するための状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。 | ●術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。  ●球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。  ・課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。  ●競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。  ●審判の方法について、学習した具体例を挙げている。 |
| 学習活動に即した評価規準 | ①課題の発見の学習活動において、ソフトテニスの学習に主体的に取り組もうとしている。  ②課題別練習の学習活動において、チームや自己の課題解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、グループの話し合いに責任を持って関わろうとしている。  ③チーム練習及び個別練習の学習活動において、チームや自己の課題解決を図るうえで、互いにアドバイスをし合ったり、励まし合ったりして、互いに高め合おうとしている。 | ①練習の中で、これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。  ②ゲームの中で、作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。  ③チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。 | ①練習の中で、ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。  ②サーブでは、ボールに変化をつけてねらった場所に打つことができる。  ③ゲームの中で、変化のあるサーブに対応して面を合わせてレシーブすることができる。  ④ゲームの中で、仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。  ⑤ゲームの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーし、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 | ①ソフトテニスの技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。  ②ソフトテニスに必要な体力を技能に関連させながら高めることについて、言ったり書き出したりしている。  ③ゲームのルール、トーナメントやリーグ戦などの試合方式、運営の仕方、役割に応じた行動の仕方など学習した具体例を挙げている。  ④審判の方法について、学習した具体例を上げている。 |

７　単元計画（全１９単位時間）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 | | | |
| 関意態 | 思判 | 技能 | 知理 |
| はじめ | 1 | ≪ねらい１≫  ○前年度の学習を確認して、単元の目標を立てよう。  ○試しのゲームを通して個人やチームの課題を見つけよう。  ○オリエンテーション  　・運動の特性を理解  　・単元目標の確認  ・学習の流れ、グループノートの使い方の確認  　・チーム編成  　・学びの振り返り  ○課題の発見  　・試しのゲーム  　・チームや個人の課題把握  　・スキルアップテキストの  活用法の理解 | ○生徒が主体的に活動でき  重点項目  主体的に取り組む意義  技術の名称や行い方  関連して高まる体力  るようポイントを押さえ  て説明する。  ○運動経験や能力のバランス  を考慮したチーム編成を  行わせる。  ○練習やゲームを通して、  これまでの学習の習得状  況、課題を把握する。  ○スキルアップテキストの  活用法について分かりや  すく説明する。 |  |  |  | ② |
| 2 | ① |  |  | ① |
| 3 |  |  |  |  |
| なか１ | 4  ≪ねらい２≫  ○ボール操作とボールを持たないときの動きの学習を通して、自分の課題を見つけよう。  ○課題に応じた練習方法を選択・実践し、チームや自己のスキルアップを図ろう。 | ○スキルアップテキストを活用した課題別練習  　・スキルアップテキストを活用し  た課題克服  活動例）的狙いストローク  サービスでは、ボールに変化を付けて、ねらった場所にうつこと。  ボールを相手側のコートの守  備のいない空間に緩急や高低  を付けて打ち返すこと。  活動例）対人レシーブ練習  変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすること | 重点項目  合意形成への貢献  練習方法の選択  面を合わせたサーブレシーブ  ロビング  ○返球方向へのラケット面  づくりなどの基本的技能  を理解させる。  ○動きを動画で確認する事  で、自己やチームの課題  を具体的に理解させる。  ○課題別に練習場所を設定  し、同じ課題をもった生  徒同士で教え合う意識を  もたせる。  ○課題解決を図るために練  習時間を多めに確保する  ように心掛け、着実なス  キル向上を意識させる。  ○練習の様子を観察し、運動  の技能について適宜アドバ  イスを行う。 | ② |  |  |  |
| 5 |  |  |  |  |
| 6 |  |  |  |  |
| 7 |  |  | ① |  |
| 8 |  |  | ②  ③ |  |
| 9 |
|  |  |  |
| なか２ | 10 | ≪ねらい３≫  ○各自で立案した練習経過腕課題を解決し、仲間と学習を進めよう。  ○課題別練習で高めた技能をゲームで発揮しながら、審判やゲーム運営の仕方を理解しよう。  ○チーム練習及び個別練習  仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり，打ち返したりすることができる。  活動例）サービスを入れてからのポーチボレー練習、相手コートへ高低や緩急を使って返球してからのポイント練習（コンビネーション練習） | ○向上した技能を練習やゲ  重点項目  互いに助け合い高め合うこと  審判の仕方  課題の見直し  ームで生かせた時、認め  合いの声掛けを意識させ  る。  ○ゲームを意識したチーム  練習を多く取り入れるよ  うにアドバイスする。  ○ゲームを行うチームと審  判、運営を行うチームに  役割を分けてゲームを行  い、審判の方法や運営の  仕方を学習できるよう  にする。  ○段階的に正規のルールに  近づけながら、男女が対  戦できるようなルールの  工夫も行う。 | ③ |  |  |  |
| 11 |  | ④ |  |
| 12 |  | ② |  |
| 13 |  |  |  |
| 14 |  | ① | ⑤ |  |
| 15 |  |  | ④ |
| まとめ | 16 | ≪ねらい４≫  ○チームや仲間の特徴を踏まえた作戦を立て、高めた技能を生かして、競技会を企画運営し、自分たちにあったソフトテニスを楽しもう。  ○団体リーグ戦  相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。  活動例）ポジションチェンジ  ○単元の反省  　授業全体を通しての成果や感想をチームで話し合う。 | ○練習やゲームで高まった  重点項目  自己に適した関わり  競技会の仕方  　技能をゲームの中で生か  す事の大切さを理解させ  る。  ○前衛がボレーに行った際  ボールの動きによって生  まれる空間をカバーする  動きを意識させる。  ○審判や運営は全員で協力  して行わせる。  ○単元を振り返り話し合う  時間を多めに設定する。 |  |  |  | ③ |
| **⑰**  **本時** |  | ③ |  |
| 18 |  |  |  |
| 19 |  |  |  |  |

８　本時の展開

（１）　本時の目標

　　　　　・チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができるようにする。

（思考・判断③）

・ゲームのルール、トーナメントやリーグ戦などの試合方式、運営の仕方、役割に応じた行動の仕方など学習した具体例を挙げることができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識・理解③）

（２）　本時の学習評価

　　　　　・チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができる。　　（思考・判断③）

９　学習指導過程（１７／１９時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 指導内容及び学習活動 | | 指導上の留意点 | ○評価項目  【Aの例】  （評価方法） | 「努力を要する」と判断される生徒への手だて | |
| はじめ  10  分 | １　集合・整列・挨拶・出欠確認・健康観察  ２　本時の目標・グループの課題を確認する。  ３　準備運動、ウォーミングアップを行う。  　・体操、体力トレーニング | | ･ 本時の学習内容と課題を確認させ、学習意欲をもたせる。  ･ これまでに学習した技能のポイントを理解させながら主体的に取り組ませる。 |  |  | |
| な  か  33分 |  | |  |  |  | |
|  | ≪ねらい４≫  ○チームや仲間の特徴を踏まえた作戦を立て、高めた技能を生かして、競技会を企画運営し、自分たちにあったソフトテニスを楽しもう。 | | | |  |
| ４　スキルアップテキストの中からチームの課題に応じた練習方法を選択し、練習する   |  | | --- | | 《スキルアップテキストの例》  例１）ストローク（４本打ち）  例２）レシーブ練習 |   ５　団体リーグ戦を行う。  　・５セットマッチ×３対戦  ・練習したことを意識してゲームを行う。   |  | | --- | | 【ルール1】  １チーム３ペアの対抗戦。1試合５セットマッチの３対戦。勝敗が決定しても全対戦行う。  【ルール2】  男子対女子の試合では男子の１回のみのサービスとし、サービス失敗は女子の得点とする。 | | | ･ キャプテンがチームの練習コートにて安全に留意して練習を行わせる。  ･ スムーズに練習に入れるよう、必要に応じて助言する。  ･ 緩急や高低、回転などを付けて前後左右ねらった場所の打ち分けられるよう意識させる。  ･ グループの中でお互いに指摘やアドバイスをし合って練習を行わせる。  ･ 練習した技能等をゲームに生かせるよう、練習とゲームのつながりを意識させる。  ･ 特にラリーの中で生じる空間をカバーすることを意識させる。  ･ 相手コートの空いてる場所に配球できることで得点しやすくなることを意識させる。 | ◎ソフトテニスを生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見つけることができる。  【Aの例】  積極的に競技会を企画・運営したり、積極的に仲間にアドバイスができる。  （観察・学習カード） | 仲間や相手の特徴をアドバイスし、仲間に伝えられるようなコミュニケーションがとりやすい環境と支援を行う。 | |
| まとめ７分 | ６　整理運動  ７　本時の反省、まとめ  　・各グループで行い、次時の活動へ生かせるようにする。  ８　整列、挨拶 | | ･ 課題が達成されたか確認させ、適確な次時の課題を設定させる。 |  |  | |